



第56号



光明寺山門(本堂側より)
撮影・伊藤 昌平

発行

鎌倉市老人クラブ連合会
発行人 大久保安夫
編集人 都筑 健一
伊藤 実
高橋 斌
〒248-8686
鎌倉市御成町18-10
鎌倉市老人クラブ連合会
(愛称・ゆめクラブ鎌倉)
☎(0467) 23-3000

印刷 (株)博報社 大阪市平野区喜連西4-6-69 ☎(06)6797-0212

次号は鎌倉文学館館長 山内静夫氏が登場



かまくらびとに聞く

千葉商科大学
政策情報学部教授

宮崎 緑氏

金で買えないものはないと言ったホリエモンの登場から広がったある格差社会、そして大定年時代を迎える団塊世代の問題など、激動の時代に生きる老人クラブの在り方とは、老人クラブの生き残る術とは何かを教えてくださいました。(二頁へ続く)

才色兼備のNHKニュースキャスターとして一世を風靡した鎌倉生まれの鎌倉育ち、と言えば、ご存じ、皆さんお馴染みのあの方。今回のシリーズ第四弾「かまくらびとに聞く」には、千葉商科大学政策情報学部教授であり神奈川県教育委員、そしてテレビ、新聞、雑誌で大活躍の宮崎緑氏をお迎えしました。

新しい仲間を見つけよう!

老人クラブは心のオアシス

老人クラブの原点は『楽しさ』と『心のつながり』『明日への希望』

今や老人クラブの解散・休会は全国的な問題にまで発展しています。ゆめクラブ鎌倉も例外ではなく、ここ数年会員数が減少し、残念ながらクラブの解散や休会も見られるようになってきました。地域の事情や後継者問題など



『楽しむ』がモットー 末広シルバークラブ(8面より)

様々な要因もありますが、私たちのPR不足も大きな原因のひとつではないかと思えます。あなたは何故老人クラブに入りましたか。老人クラブのどこが楽しいですか。会員一人ひとりが自問自答してみましよう。きっと答が見つかるはずですよ。答がない人は本紙八面をご覧ください。そして老人クラブをもっとアピールしてください。

ゆめもも56号 主なもくじ

- 2面 宮崎 緑氏インタビュー
- 3面 クラブの動き
- 4面 鎌倉ゆかりの人・中野孝次
- 5面 ゆめクラブ鎌倉の動き
- 6面 地区だより
- 7面 映画の町だった大船 春の研修旅行
- 8面 加入増強・頑張るクラブ成功例
- 10面 テーマ随想「鎌倉の中の私の秘密の場所」
- 12面 鎌倉散歩 やまももさん

私と鎌倉のまち

十二三年前に講演をさせていただいたこともあり、老人クラブのことは、よく存じています。

私にとって鎌倉は心のふるさとであるばかりでなく、私自身の存在を支えてくれる軸でもあります。八幡さまや段葛が通学路でしたから青春の思い出も詰まっています。鎌倉というと八百年前の源氏の歴史が目がいきがちですが、今現在も進行形で歴史や文化が紡がれているまちです。鎌倉には素敵な方が大勢いらつしやいます。ちよつと前には、鎌倉文士と呼ばれる争々たる作家の先生方がいらつしやいました。着流しで、普通に歩いたり、笑つたりして一市民として暮らし、時には飲み屋さんで隣り合わせることもあつたりする、そこが鎌倉のまちの素敵なところで



す。そうした雰囲気から、鎌倉で言う「老人」のイメージは、国民生活白書でいう一般的な老人のカテゴリには収まらないと思つし、そつあつてほしくないですね。私自身も、素晴らしい先

輩諸氏から受け継いだものを、次の世代に橋渡しする役割があると感じています。鎌倉の文化、風情を次世代に伝え残す責任があると思つています。

団塊の世代へのアプローチ

二 七年問題、つまり団塊の世代が大量定年を迎えて社会構造が変動するだろうという問題に関心が集まっています。あまり世代論に振り回されるのはどうかとも思いますが、団塊の世代は戦争の結果であり、時代の変転の大きな歯車として動いた世代でしょう。その一つ上の世代は戦争で価値観を打ち砕かれ、一つの私たちの世代はいわゆるノンポリ。その狭間で団塊の世代の方々は、ひとたび燃える目標をもつと一致団結して突き進む人たちでしょう。皆で共有できるテーマが見つかると、ものすごいパワーを発揮されると思います。

まもなく彼らが会社組織から離れて個に戻つた時、ふつと息をついた頃にゆめクラブが何を提供できるか、だと思つています。

少子化と老人クラブ 子どもたちに何を残すか

世間では、出生率が低下して一・二九ショックとか言われていますが、生物学的にいうと、生存競争が熾烈になつ

て生き残ることが大変になると、植物も動物も種の保存のために子孫は少なくなるので、人間社会は今ちよつとぞ



れで、少子化になつたのかと感じています。生きていきにくい環境もありますが、社会的な環境が少子化を進めていると思つています。

このような社会状況の中で、私は今、県の教育委員を務めさせていただいているのですが、心を育てるのが非常に難しい時代になつてきたと感じています。自動販売機の普及で、人と会話することなく欲しいものがすぐ手に入り、携帯やゲーム、パソコンの普及によって、昔にはなかつた便利なツールをたくさん、今の子どもたちはもっています。バーチャル化の進展で、子どもたちのライフスタイルが昔とは大きく変わりました。

こんな時代だからこそ、高齢者の皆さんには、携帯やゲーム、パソコンがなかつた頃のことを子どもたちに教えていただきたいです。私が館長を務めている鹿児島島の奄美

パークでは、地元の子もたちとおじいさん、おばあさんたちの交流をしようつちやうつています。子どもたちは相撲の取り方を教えてもらいな

がら、人との関わり方を学んだら。五感を目いっぱい働かせて、生物としての人間の部分を体験して、実感して欲しいと思つています。この「実感する」ということが、命の重みを知ることなのではないかと思つています。

その「実感」をもつていらつしやるのが、ゆめクラブ時代の皆さんです。知識偏重の時代で頭でつかちになつた子どもたちに、「実感」として生きるということ、生きるという本当の意味を伝えてほしいのです。

鎌倉の香り漂う名称に

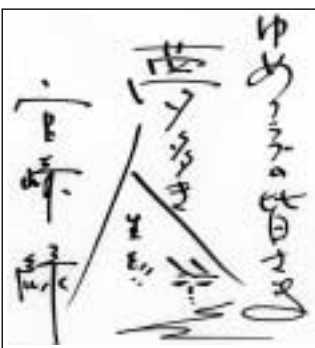
「老人」という言葉は、これまで使われてきた歴史の中でイメージが先行していますから、もつと鎌倉の元氣な皆さんを総称するような名称の方がいいですね。

ネーミングは社会的にも大事なものです。例えば悪いのですが、二トやフリーターなど、ネーミングが固定した段階で社会的に認知されま

まず皆さんの今の状態を考えましよう。

皆さんはもう、幸せつて何かということを充分存じてしよう。お金で買えないものは無い、などとおつしやつた人もいました。幸せはお金じゃない、物より心だ、そして可処分時間をどれくらいもつているか。しかしそれだけではだめで、人間関係をどれくらいもつているかだと気づいていらつしやると思つます。お金持ちより、仲間もち、「友だち持ち」なのです。

「可処分時間持ち」で、「仲間持ち」であれば、人生の中の一番いい季節を生きていくことになりま。このポイントと、鎌倉の香りというか、文化をつまく融合させたネーミングがいいですね。鎌倉と言えば〇〇というよう



宮崎 緑氏 プロフィール

慶應義塾大学大学院修了。NHK「ニュースセンター9時」初の女性ニュースキャスターに就任したジャーナリストとしての経験をいかし、専門の国際政治学および政策情報学に実学としての体系を導入。東京工業大学講師、千葉商科大学政策情報学部助教授を経て現職。また、屋久杉と大島紬の保護に取り組む、奄美パーク園長、田中一村記念美術館館長を兼務。昭和シェル石油株式会社監査役。日本社会情報学会理事、日本計画行政学会理事、国際食糧農業協会理事等。神奈川県教育委員。

北鎌倉桜会

沿革と現況

私たちのクラブは、大船で柏尾川に合流する砂押川をさかのぼった台地に、昭和四十年から造成された住宅地です。昔は近くの砂押川で、良質の山砂がとれたようです。造成当時は子どもがいる世帯が多かったのですが、今は市内でも高齢者の多い町となりました。老人クラブができたのは昭和四十四年、約三十七年が経ちました。設立後しばらくは、町内唯一の高齢者の

活動内容

奇数月に月例会、偶数月に茶話会を行っています。月例会では外部からの人をお招きして有益な講話やお琴の演奏、女子の合唱などの音楽鑑賞、また市スポーツ課指導の健康体操、大船警察署員をお招きして交



「北鎌倉桜会のうた」
作詞 石田一夫
作曲 高橋清子
北鎌倉の うまし地に

われら楽しく 集いする
その名もかくわし桜会
(2) 永き苦楽の 年を経て
安らぎの地に 夢多く
共に語ろう 幸せを
育くむわれらの桜会
(3) 広き見聞きし 学び合い
心ますます さわやかに
身体いよいよすこやかに
弥栄え行く桜会
中村 正樹

クラブの動き

松葉楽天会

新たな発見に

視野が広がる

ゆめクラブ鎌倉第三地区の活動として、昨年、資生堂鎌倉工場の見学会を行いました。

各クラブから数名の参加でした。ロビーには年代別の製品・口紅等が展示され、各自で試してみるコーナーもあり、おみやげに買うこともできます。工場は



明るく清潔というのが第一印象でした。会議室で茶を頂き、その後スライドで、工場の歴史と生産、工程の説明がありました。このあと、二班に別れ現場の見学です。全員頭にキャップ、靴にはビニールカバー

が用意されました。これには皆びっくりしました。清潔を第一とする結果だと思

います。食堂も明るく交代制で利用しているそうです。ガラス越しの見学ですが、製品が流れ作業でできる工程を目の前で見ることができました。

日ごろ何げなく使っている化粧品も、多くの人の手によりできることを実感しました。帰りには男女別々の化粧品のおみやげを



いただき全員で記念写真を撮り喜んで帰りました。
山路 恵子

思い入れ深き地 鎌倉

中野孝次さんとの 一期一会ドキュメント



二階堂白寿会 門田 京藏



昨秋鎌倉文学館で「文学都市かまくら100人」展が人気を集めた。鎌倉を訪れた作家、移住して集った文士たち、戦中・戦後鎌倉でいろいろと奮闘した作家、それに現役の人たちと、ゆかりの人100人にしぼるのも難しかったことだろう。その中に中野孝次がノミ

ない人柄と好きになった。さて、本紙「やまもも」は、四年前の五十号からリフレッショされた私もその編集に携わったが五十一号の「会長対談」のお相手に彼を推したところ採用となり、二月梅咲く大佛次郎茶亭で実現となった。

ネットされ、私は当然と思うと同時に嬉しかった。今回は私と中野孝次さん(以下敬称略)との一期一会と、鎌倉とのゆかりを紹介し、次回は彼のエピソードを並べて生涯をふりかえってみよう。



近代文学館前にて

彼は大正十四年(一九二五)生れ。昭和の年代と年齢が重なる。翻訳(カフカ「城」S28)は早かったが、著作活動はほぼ五十歳からで、七歳年下の私が彼の本に注目したのは「清貧の思想」(H4)のころからだ。その後後文春の雑誌「ノーサイド」に連載の人生論的エッセイに共鳴すること多く、過去の著作を追いかけ、親密感を覚える作家となった。そのころ「新刊読まじ、古典さんまい」でテレビは大嫌いだ、という彼が、なぜかNHK「BSブック・レビュー」だけには評者としてしばしば出演し、歯に衣着せぬ直情・頑固な言動、推薦者の立場も考えず嫌いなものは嫌い拒否する姿などをみて、この人は世辞、嘘はいえ

当日のテーマは当然「老人の生き方」だが、対談者が彼の本など数多く読みこなしてないと初対面、短時間ではなかなか噛みあわない。一時間半の予定が時間を余して「もついでしよう」と立ちあがりお帰りの様子である。この対談「老人の生き方」では身も蓋もないので、「閑のある生き方」というタイトルにした。この日までに私は八年ほど連載していたエッセイに三回ほど中野のことを書いた。当時、県立近代文学館長だったので、知人の学芸員を通じて、エッセイをお届けし、彼の主著三作にサインをお願いしていた。

話に戻すと、帰り支度の彼にこれからの予定を聞くと、「本覚寺の先のお茶屋に目をつけている急須を見に行きたい」とのことなので、私は改めて自己紹介し、同行を願い出る。

若宮大路を歩きながら「マフラ」を首にまいた大佛さんと、和服で懐手の小林秀雄が並んで颯爽と歩く姿が決まっている写真がありますがこの辺りです」などと話すうちに、お茶屋へ着いたが、あいにく戸が閉まっていた。脇の妙本寺へ寄りますかと尋ねると大いに賛成の様子。門前の「比企能員邸址」の碑文を読んでおられる。「そつが、中野孝次の処女評論は『実朝』であった」と気づく。

「私は昔名越に住んだことがあり、この道は懐かしいネ。妙本寺がこんなに大きな立派な寺だったのか」と境内にふみ入り、「長谷川泰子を争った小林と中原中也が二人して眺めた海棠はあるかしら」。当時のその木は枯死して今は二代目である。

「ちようど十数年前実朝を熱心に調べていたころ、わたしは実朝の遺跡を訪ねなかつた。鎌倉・逗子・葉山と若いころ三年も住み、自分自身の思い出があまりに強すぎる。それは小説にでも書くしかない切実な体験で、あとは小説に書いてしまふまでわたしは虚心に鎌倉を訪れることができなかった。」(「西行の花」所収)

「実朝考」「プリューゲルへの旅」を経て、未知な自分を探すためには、ドイツ語でいう長篇の成長小説と呼ぶ自伝的自己確認小説を書くしかないという思いがつのって書いたのが、五十二丁五十四歳

に書いた青春三部作「麦熟るる日に」「苦い夏」「季節の終り」という古風で切実で硬質の文体の私小説だった。これを読むと、苦勞して五高から東大独文に入学、貧困と孤独の学生生活中から、アルバイトで通った輸入商ゲーテ書房に卒業後も勤めた。鎌倉から通い下宿先の名越の海軍軍人未亡人と停電の夜妙な関係になったり、勤め先では態度不遜、勤務不良で首になり、無一物で逗子桜山に移り、海岸での女友だちとの交遊やらも赤裸に描かれている。

「鎌倉といえば先ず当時の記憶が甦り、当時と結びつかずには鎌倉という土地を見ることはできない。」(「かまくら春秋」H7・6「生ものこと老いること」より)



中野にとつて鎌倉は青春のほろにがくも甘い思い入れ深い土地(大町・台・山ノ内)だったのだ。妙本寺を三、四十分回って、駅に向かうと四時前、「中野さんは五時からお酒を召しあがるが、少々早いですか」と「そつだね、いいでしょう」と思わぬお返事。駅裏の「吉亭」という割烹へ案内する。夕方の休憩時間だったが、顔なじみなので開けてもらって借り切りの雰囲気酒席となった。

「中野さんは結構、ハスに構えた人だった。酒にお誘いしても、まともに返事が返ってきた試しがない。生きていたら『寿命があれば』と必ず一言あった。先月本当に亡くなられてしまった。あの台詞が二度と聞けないのが淋しい。」(「かまくら春秋」H16・9)

寄稿誌の親しい伊藤氏の誘いも何度が断っているのに、はじめて会った私によくぞつきあつて下さったという感がある。「俺のことをいろいろと書きやがった面白い男だから、少々つきあつてやる」というお気持ちだったか。

四、五品の肴で熱燗だけを三本一時間かかって飲むと、「いいところだね。今度女房を連れてこよう」と愛妻家ぶりを発揮される。この一時間私一人だけではもったいない話を熱をこめてしゃべり通して下さったのだ。今後の著作の話になって、「鈴木大拙と、それに中国の日本であまり知られていない面白い古僧のことを書いてみたい。」

ここ数年彼は死期を予期したごとく積極的に漢詩・論語・道元・セネカを書き、それに徒然草、方丈記の現代語訳と多くの人生論を次々と出した。

この日から一年五ヵ月後、先鋭管理的だが人間的でないのと、当初入った病院から、院長と気があつた鎌倉七里ヶ浜の聖テレジア病院に転院し、平成十六年七月十六日、日ごろの考え方通り友人・出版社にも知らさず静かに逝った。

生と死については兼好・道元等の先哲者に親しくつきあつた人だけに、すでに三年前に秀夫人宛に見事な「死に際しての処置」が残されていた。

鎌倉市老人クラブ連合会(平成18年度)の動き

日程	行事名
4月5日(水)~7日(金)	市老連春期研修旅行(しまなみ海道)
4月28日(金)	平成18年総会(鎌倉生涯学習センター)
5月20日(土)	機関紙「やまもも第56号」発行
6月21日(水)雨天の場合22日(木)	グラウンドゴルフ大会(笛田公園広場)
6月29日(木)~7月1日(土)	市老連研修旅行
7月3日(月)~6日(木)	第42回老人大学寿講座(レイウエル鎌倉)
9月6日(水)~8日(金)	市老連秋期研修旅行
9月上旬	福祉バザー
10月9日(月)	銭湯寄席
10月7日(土)~11月4日(土)	ダンス講習会
11月8日(水)~14日(火)	第34回高齢者の趣味の作品展(腰越・深沢地区)
11月9日(木)	功労者のつどい(鎌倉生涯学習センター)
11月17日(金)	芸能大会(レイウエル鎌倉)
11月25日(土)	機関紙「やまもも第57号」発行
12月上旬	市老連研修旅行
12月15日(金)	年末慰問
1月10日(水)	新年賀詞交歓会

第42回老人大学寿講座予定表

開催日	時間	演題	講師
7月3日(月)	9:30~11:30	川端康成の作品と生きざま	文芸評論家 尾島政雄氏
7月4日(火)	9:30~11:30	楽しく歩けば体も脳も若返る	京大名誉教授 大島清氏
7月5日(水)	9:30~11:30	高齢者の年金、そして皇室のお話について	フリーアナウンサー 久能靖氏
7月6日(木)	9:30~11:30	歌っていきいき... 人生の第二噴射	うたごえの店ともしび パトリン歌手 大野幸則氏

地域出前講座「いきいき健康体操講座」(平成18年度)

地区	開催場所	開催日程	定員
鎌倉第一	鎌倉青少年会館	5/30, 6/6, 6/13, 6/20, 6/27, 7/4, 7/11 (毎週火曜)	30
鎌倉第二	七里ガ浜小学校体育館	5/21, 5/28, 6/4, 6/11, 6/18, 7/2, 7/9 (毎週日曜)	30
大船第一	レイウエル鎌倉	5/26, 6/2, 6/9, 6/16, 6/23, 7/14, 7/21 (毎週金曜)	30
玉縄	玉縄すこやかセンター	5/27, 6/3, 6/10, 6/17, 6/24, 7/1, 7/8 (毎週土曜)	30
腰越	西鎌倉自治会館	9/6, 9/20, 9/27, 10/4, 10/18, 10/25, 11/1 (毎週水曜)	30
深沢	深沢行政センター	9/21, 9/28, 10/5, 10/12, 10/26, 11/2, 11/16 (毎週木曜)	30
大船第二	大船体育館	10/3, 10/10, 10/17, 10/24, 10/31, 11/7, 11/14 (毎週火曜)	30
鎌倉第三	見田記念体育館	10/18, 10/25, 11/1, 11/15, 11/22, 11/29, 12/6 (毎週水曜)	30

会員以外の方の募集は、市広報でお知らせいたします。

その他近日開催予定の行事

5月21日(日) 第4回世代ふれあいの会開催
(鎌倉市立深沢中学校体育館) 13:30~

平成18年
鎌倉市老連
総会を開催
意欲に満ちた新年度がスタート

ゆめクラブ鎌倉の動き

市老連活動の報告と情報コーナー

四月二十八日午後二時、鎌倉生涯学習センターにおいて、秋山事務局長司会のもと平成18年鎌倉市老連総会が開催されました。第一部総会では、大久保会長あいさつの後、奴田総務副部長を議長に選出し議事に移りました。平成十七



年度事業報告や収支決算報告につづき、平成十八年度事業計画案、予算案の審議や一円玉等活動基金報告が行われ、活発な質疑応答を

「生活に豊かにする活動」を二大柱として挙げ、これを受けて県老連は「か・な・わ・わ」事業を立ち上げ推進している旨を述べられました。これは私たちゆめクラブ鎌倉にとっても枕詞と

受けてそれぞれが満場一致で承認されました。最後に中田副会長の閉会のことばで終了しました。第二部では県老連総務課長青池公平氏を招き「ゆめクラブ神奈川の現状と課題について(老人クラブの活性化について)」の迫力ある講演をいただきました。青池氏は連日県下の市町村老連を訪れては意見の交換を重ねておられ、私たちの「やまもも」もよくご存知でした。



講師・青池県老連総務課長

県老連の現状と課題については、全老連の標榜する「生活に豊かにする活動」を二大柱として挙げ、これを受けて県老連は「か・な・わ・わ」事業を立ち上げ推進している旨を述べられました。これは私たちゆめクラブ鎌倉にとっても枕詞として浸透しています。『市老連の役割は仲間づくり、健康への精進、そして生きがいを求める行事を企画することが求められるのです。その基幹となるのは単位クラブであり、会員の方々に前述の二本柱の理解と行動を表すことがそのま

老人クラブへ参加しませんか

鎌倉市老連は昭和39年9月に創設、今年で創立40周年を迎えました。生きがいと健康づくりのために、老人クラブの仲間づくりを基礎に相互に支え合い、楽しいクラブづくりに励んでいます。あなたも参加してみませんか。市内在住60歳以上の方であれば、どなたでも参加できます。

問い合わせ先
鎌倉市老人クラブ連合会事務局 ☎23-3000 (内線2467)

地区だより

鎌倉第三地区

鶴岡八幡宮見学会

名越きらく会
瀬戸 光恵

去る二月七日、第三地区老人クラブは鶴岡八幡宮見学会を実施しました。当日はあいにく雨模様の天気でしたが、集合場所の太鼓橋ぎわには三十五名程の人が集まりました。

武田地区長から八幡宮神官の紹介があり、さっそく見学に歩き出しました。日ごろお参りに来慣れている八幡様、何もいままら案内などと思っていました。やはりきちんと言明を受けますと歴史やいわれを感じ、新たな感慨を覚えまし。特に本宮入口頭に掲げられた「八幡宮」の扁額に書かれた「八」の字は、鳩をかたどって書かれてい



ると聞かされた時は、八幡宮と鳩との結びつきが何となくわかる感じがし、より親しみをもちました。そしてその鳩を見て「なんで捕まえて食べないんだ？」と言った外国人の言葉に文化の違いを感じさせられました。

今回は本宮内にある「宝物殿」は修復中で拝観できませんでしたので、再度訪れる事を誓って帰途につきました。

腰越地区

世代間交流も活発に

西鎌倉福寿会
羽鳥 光男

当会は腰越地区に属し、市の西部、西鎌倉住宅地内にある。会の創立は昭和四十四年で、会員数は現在百十二名。会は総務ほか五部で運営にあたるほか、地区ブロックごとに世話人を置き、会務を行っている。毎月の「会報」を発行し、相互のコミュニケーションを図っている。

- 会の活動は
- 一、広報活動
毎月の会報の発行、会員名簿の作成、アンケート調査、各種広報広聴活動。
- 二、文化活動
- ①同好会(趣味の会)活動

の推進。

- ②地域活動への参加(スポーツ・講習会・展示会等)。
- 三、社会活動

公園の清掃、活動基金(一円玉募金)、地域諸行事への参加(学校や地域諸団体との交流等)等を中心に活動している。

例を文化活動の同好会に



子ども囲碁教室

挙げる

- (1)グラウンドゴルフや健康体操の会は健康増進のため。
- (2)囲碁、かるたの会は会員同士の交流を深め、さらに子どもたちとの世代間交流も活発に行っている。
- (3)懇話会

何でも語ろうのおしゃべり会、ストレス解消の井戸端会議、テーマは世界の政治・経済から身近な健康問題、買物情報まで。

当会は会則前文に「寛容と互譲」「自立と互助」を掲げている。入会してよか

ったと思える会、そして誰からも愛され親しまれる、そんな会を目指している。

鎌倉第一地区

小学生とのふれあい

極楽寺橋会
山下ヨシ枝

老人クラブの活動として、毎年稲村ヶ崎小学校の二、三年生を対象に、紙鉄砲や紙とんぼ、けん玉、お手玉、あやとり、ぶんぶんごまなどの「昔の遊び」を通してふれあいを実施しています。

前回までは遊びの種目別に教室を分けていましたが、今回は体育館を利用してひとつのフロアで全部の遊び種目を同時に行えるようにしました。この事で子どもたちは自由にいろいろな遊びにふれることができ、大変興味を持ってくれました。私たちがお手玉をやっ



て見せると、「曲芸師みたい」と喜び、けん玉がうまくできないと慰めてくれたりもしました。広いスペースで思いきり遊び、嬉々としている子どもたちの姿を見る時、私たちも童心にかえって一緒に遊び、有意義な時間を過ごす事ができたと痛感しております。

終わりに子どもたち全員から「ありがとうございませした」の声をかけられ、「また来てね」と約束した事が明日への励みとなり、元気の源にもなりました。

大船第二地区

発足二年目を迎えた「大船第二地区」

小袋谷第二亀甲会
峰嶋 郁郎

大船駅を起点とする横須賀線沿線に在する山ノ内、市場、小袋谷、富士見町、戸ヶ崎の地区に八つの老人クラブがあります。

平成十七年度は「町内道路の美化活動」「いきいき健康体操講座」に大勢の会員が参加され、社会活動、健康づくりに貢献してきました。今年は昨年の活動計画を、引き続き各クラブと協調をとりながら次の活動を進めてまいります。



修、見学バス旅行

二、第二の人生を「より楽しく、実のあるもの」にするために「友愛チーム」に取り組み、組織化して実行。

三、社会、教養、健康、活動による仲間づくり。さて、今年は何とか若い指導者を育て、それぞれが役割を分担し、マンネリ化した老人クラブを改革して新たな第二の人生を迎える人たちの心の拠りどころになるクラブへの成長を願うものであります。

深沢地区

融和と連携を保つ

寺分楓会
大野 秀夫

古くは深沢庄という名称であったところから、梶原、寺分、山崎、上町屋、常盤、笛田、手広などがあつた。今はそれぞれの地名をつけた十五のクラブで深沢地区を構成している。

東西に長く位置しているので、常時全クラブが集まることは難しいが、日帰り旅行、教養講座など多くの催しを行い、融和と連携を持って行っている。地区懇談会は年五回、それぞれクラブの活動を伝える。会長さんも熱心だ。

地区活動として世代ふれあいの会を続けているクラブやサロン事業も二つのクラブで定期的集まり、お喋りや歌をうたつて楽しんでいる。スポーツはクラブごとに行っているが、地区行事としては毎火曜、三菱のグラウンドを借り、北風が吹きつける寒い冬も、照りつける炎天下の真夏も、元気な会員が技を磨きながら楽しんでいる。

これからも郷土史を中心に教養講座を増やしたり、ゴルフの深沢大会を目指して、積極的に活動を続けたいと思っている。



鎌倉今昔物語

映画の町だった大船

離山ちとせ会 伊藤 仁

昭和九年(一九三四年)松竹蒲田撮影所は手狭になつてきて、そこに浮かびあがったのが、大船の元競馬場の跡地である。九万坪のうち三万坪を撮影所とし、六万坪を「田園都市」として一般に売り出した。一年八カ月をかけた、百二十万円を投じた坪四千五百坪の新しい撮影所が完成する。

昭和十一年の「松竹」は、蒲田から大船への大移動で明けた。一月四日



開設1年後の大船撮影所、昭和12年(『松竹八十年史』より)

赤や青のどんがり屋根の洋館や洋折衷の家が建ちはじめた。朝夕五、六百人が駅と撮影所を往来した。彼らは煉瓦道を歩

かず原っぱを直進した。結果、またたく間に草が消え、撮影所への近道ができた。

この年の四月、第一回の「松竹まつり」が開かれ、電車は超満員。道という道に人があふれた。作品は「有りがたうさん」「一人息子」「家族会議」「人妻椿」「新道」と名作、ヒット作が続ぎ、さらに「愛染かつら」「暖流」は爆発的ヒット。数年にして小津・島津・野村・五所監督等の奮闘、人気男女優の輩出により、松竹大船調映画は確立され、その人気と評価は高まった。やがて戦時色が濃くなり大船調も



『朱と緑』高杉早苗(左)と高峰三枝子

沈黙を余儀なくされた。しかし戦後、木下恵介(「大曾根家の朝」「二十四の瞳」「女の園」「カルメン故郷に帰る」)「喜びも悲しみも幾歳月」、吉村公三郎(「安城家の舞踏会」「わが生涯のかがやける日」)、小津安二郎



『兄とその妹』桑野通子と佐分利信

「晩春」「麦秋」「東京物語」「秋刀魚の味」等が日本映画の最盛期の一翼をになった。

その後も大勢の監督の努力によって、名作、傑作が輩出した。三十年代中頃からのテレビの普及によって映画

産業も衰退の方向の中にあったが、山田洋次監督は、四十四年から渥美清という素晴らしいキャラクターを得て、二十六年間に四十八作の「男はつらいよ」シリーズをつくりあげ、松竹の屋台骨を支えた。

この後、寅さんと呼ばれるものにして、「シネマワールド」を開館したものの、三年間で閉館し、平成十二年、六十数年の撮影所の歴史を閉じた。

跡地は平成十五年四月、鎌倉女子大キャンパスになり、松竹前という名前が、町内会と老人会と学校の地区割りなどで、いまだに残っている。

春の研修旅行



平山郁夫美術館・耕三寺...しまなみ海道3日間の旅

四月五日曇り空、朝七時に鎌倉を出発。足柄SAで二台のバスが合流するころは小雨になつていった。参加者八十名、降り続く雨もバスの中となれば苦にならない。

朝食は車中弁当で先を急ぐ。倉敷市を過ぎて四時半ごろ鷺羽吹上温泉に到着。ここは大角力出羽海親方の出身地である。夕食の後はカラオケを楽しむ、その後ホールへ移って噴水を背景にした暗いステージの鬼面太鼓を見る。

翌朝六日は晴天、八時にホテルを出発して平山郁夫美術館と耕三寺のある瀬戸内海、生口島、瀬戸町に向かう。途中尾道市を過ぎる。放浪記の作家・林芙美子は下関に生まれ、尾道の女学校を

卒業して作家になった。鎌倉市二階堂に住まわれてご健在だった陶磁の研究者・小山富士夫氏の話です。

「先日、林芙美子と屋久島の話をしました時、彼女は「屋久島は雨の多いところだ。一カ月に三十五日雨が降る」と言っていた」との話でした。二人とも今はもうない。面白い表現だと私はきいた。

バスは橋を二つ渡って平山美術館に着いた。和風の落ち着いた建築だ。門に入って少し進み右へ



平山郁夫美術館・入口ロビーにて

曲がったところに茂った雌雄二本の「やまもも」の木が植えられて花の盛りだった。思いがけぬことだ。館の玄関のロビーには仏教伝来玄奘三蔵の旅路の画があった。平山画伯はシルクロードを百

数十回も旅したとの事。見学が終わってから「鎌倉からの老人クラブ」とは「のご好意で、平山画伯の実弟の館長平山吉雄氏のごあいさつとお話をきく。午後は耕三寺の拝観、門内で記念撮影後に苑内拝観。昭和十一年ごろから建立がはじめられて、昭和四十年ごろに完工したといわれる。浄土真宗の寺で、日光の陽明門、室生寺の五重の塔、宇治の平等院鳳凰堂、法隆寺の救世観音像、最乗寺の多宝塔等々、満開の桜花を背景に美しい建

造物が次々と拝観できて、その見事さに深く感銘するとともに、建立者の耕三寺耕三和上の信仰心と誠実さに厚い敬意を表わした。

同じ道を走って四時半ごろに鷺羽山のホテルに着いた。夕食後カラオケと鬼面太鼓を前夜と同じように楽しむ。

七日は朝八時にホテルを出発。途中、赤穂城跡を見学して、大石神社に参拝する。途中いづくか休憩して八時ごろ鎌倉に



耕三寺・陽明門

到着。順番にバスを下車し解散。桜花と瀬戸内の景を楽しむ「しまなみ海道旅行」を終わりました。

教養部 高橋 斌

御成町
末広シルバークラブ
 (会長・奴田不二夫)
加入増強への取り組み
「楽しむ」を追求して会員が二倍増!
「楽しくなければクラブじゃない」
会員主体のクラブづくり
頑張るクラブ 成功事例

末広シルバークラブ(御成町)が発足したのは、今から二年前の平成十六年の四月。きっかけは、地域の自治会員から出た、老人クラブ復活を求める声だった。

「もともと、この地域には末広老人会がありました。後継者がいなくなると解散に追い込まれました。地域に老人クラブが無くなって六年あまり、きつと、私も含めてみんな寂しかったんです。『よし、立ち上げよう!』ということ、声を掛けると、いきなり三十人集まりましたから...」

地域の団体として、老人クラブは無い。はならない存在なのだ。と肌で感じたという奴田会長。集まった会員三十人、ここから、『楽しむ』をモットーにした末広シルバークラブの快進撃が始まった。



扇ガ谷海蔵寺にて

「鎌倉文学館に行ったとき、文学館の歴史や小津安二郎さんの話など、今まで

の無い人も一緒に『楽しむ』ために、シルバーボランティアガイドとして活躍している老人クラブの会員に協力を求め、無理なく歩いて、新たな鎌倉を再発見できるコースを企画した。

「市内散策で健康増進と知的欲求も満たされ、さらに、歩きながらの会話で会員同士のコミュニケーションも図られました。また、これをきっかけに、気軽に声を掛け合うような仲間づくりの土台もでき、市内散策に参加するためには、市内散策する人も出るなど、一石二鳥ならぬ一石三、四鳥の効果をおげました。」

このほか、日帰り旅行、趣味・娯楽に関する事業にも『楽しむ』要素を取り入れ、

また、地元神社の清掃、町や海岸の清掃、社会福祉施設の慰問など、社会奉仕活動にも熱心に取り組んだ。発足以来二年、こうした活動が地域の高齢者に浸透し、気がつけば会員は六十人、発足時の二倍になっていた。

「特別なことをしていると、いう感覚はないんです。しいて言えば、役員や会員さんからの声をよく聞かせてもらうことが良かったんじゃないか。皆が『楽しい』と思うことをこれからもやっていきたいです」

「同じ地元で暮らす高齢者同士、仲良く楽しく生きやもつたい。地域の高齢者全員が全員老人クラブに入ってくださるよう、これから頑張りたいです」

老人クラブは、人と人、人と地域をつなぐオアシスのような役割。入って良かった、楽しくしようがない、と言ってもらえるような活動を模索し続けたいと語る奴田会長。今後どのような活動を見せてくれるのか、末広シルバークラブの活動に大いに注目したいところだ。



「同じ地元で暮らす高齢者同士、仲良く楽しく生きやもつたい。地域の高齢者全員が全員老人クラブに入ってくださるよう、これから頑張りたいです」

老人クラブは、人と人、人と地域をつなぐオアシスのような役割。入って良かった、楽しくしようがない、と言ってもらえるような活動を模索し続けたいと語る奴田会長。今後どのような活動を見せてくれるのか、末広シルバークラブの活動に大いに注目したいところだ。

頑張るクラブ
加入促進
あれこれ
 全国版

ユニークな企画で
 大分県別府市
 別府市老連・鉄輪東明朗会では、年に一回開催していた歩こう会を「防犯パトロール歩こう会」に企画を変えて週一回実施するようになってから会員が倍増、三十一人だった会員が七十五人に増加しました。健康づくりを兼ねた防犯パトロールは地域の皆さんにも好評で、老人クラブの存在もアピールすることができました。

そのほかにも、会員だけが使用可能な農園も開園。家庭菜園に興味のある人がクラブに入会してきています。

手紙作戦で増強
 新潟県新津市
 会員増強加入率六十%達成
 キャンペーンを実施して、「老人クラブ入会のお勧め」はがきを未加入者へ千枚前後を発送。宛名書きは、広報啓発部が担当しています。また、いくつかの単位クラブでは、六十歳に達した年度の三月上旬までに健康で退職できた喜びと合わせて老人クラブへ加入するようにと手紙を出し、新年度になったら役員が訪問します。

その際は、未加入者に身近な人、趣味の合う人など個別に作戦を立てます。また地元の名士である市長、市会議員、町会長、民生委員等を会員にしています。

老人クラブは、人と人、人と地域をつなぐオアシス

知らなかった話が聞けて、いい勉強になったと皆さん満足そうでした。普段、友だち同士で行っても、な

まず実施したのは、市内散策。健脚の人も足に自信

また、地元神社の清掃、町や海岸の清掃、社会福祉施設の慰問など、社会奉仕活動にも熱心に取り組んだ。発足以来二年、こうした活動が地域の高齢者に浸透し、気がつけば会員は六十人、発足時の二倍になっていた。



覚園寺手前約100mにある庚申塔。ここから今泉・天園コースの登り口となる。

鎌倉の中の 私の大切な場所 秘密の場所

材木座 私の宝物

材木座海楽会
伊藤 武子

鎌倉一美しい姿の光明寺の山門は真西に向かつて建っています。春は桜のあや衣といいますが、山門を背に咲く満開の桜は美しく私たちの心を和ませてくれます。春秋彼岸の中日には、この山門の上で大勢のお坊様が伊豆半島に刻々と落ち入る太陽を見ながらお経を唱えます。これを日想観というそうです。

先年NHKテレビの「歌はこうして生まれる」という番組で、美空ひばりさんが歌っている「真赤な太陽」が取り上げられ、作詞をした吉岡治さんが取材を受け、私の家で出来上がるまでのエピソードなどお話しになりました。「真赤な太陽」は、鎌倉材木座の海見える私の家で生まれた歌なのです。吉岡治さんは「おもちゃのチャチャチャ」「大阪しぐれ」「さざんかの宿」「命くれなれ」「天城越え」など、次々ヒットをと

ばしている作詞家です。

光明寺に蓮の花が咲くころ、「観蓮会」という楽しい行事があります。庭を見ながら書院でお食事をいただき、御前様の法話をお聴きし終わりますと、回廊で大きな蓮の葉に冷酒を注ぎ、茎の細い穴から流れ出る酒を飲むのです。これを象鼻杯といいます。なお蓮の花は開いて閉じて四日目に散るとお聞きしました。

山王台の うずもれた秘密

扇が谷福寿会
伊藤 実

私の住む山王台自治会は源氏山の北側で化粧坂に近く、約六十世帯が散在している。山の中腹の一部が岩盤で、発破を使うなど、かなりの難工事だ。終わったのは昭和三十六年、約一年くらいかかっている。

この団地の西側、つまり

葛原が岡に近い崖地に小さな朱塗りの鳥居があつて、当時工事の責任者がよくその祠で手を合わせていたのを覚えている。工事の安全を祈願していたのだらう。

先日、その「山王」の由来を知りたいと、中央図書館に行つて館員にそのわけを話したところ、快く神奈川県の名と題する分厚い本と、かなり古そうな地図を探してくれた。

さつそく「山王」の文字を探したところ、「山王が谷」の記事が目についた。それによれば、寛元三年(一二四五)、前將軍藤原頼経が「山王堂」に参詣したとの記事があり、現在、山王堂の祠は残るが、谷間は昭和三十六年(一九六一)から宅地造成されて変貌したとあつた。

また、だいぶ前の地図を見てみると、「山王堂谷」との文字が源氏山の近くに記されていた。

以上二つの文献から推測すると、源氏山の北側のふもとに「山王堂」と呼ばれる祠があつたことは、ほぼ間違いないさうだ。しかしその祠は、かつて安全を願つてお参りしていた団地の西側の崖地にも、団地内にも見当たらない。だとすると、どこかに移つたのか、それとも埋められてしまつ

散在ヶ池で モーツァルトを聞く

二階堂白寿会
鳥井 善尚

覚園寺谷戸に延宝五年と刻された庚申塔がある。傍らに天園コース入口の案内杭が目につく。十一時にこのコース急坂を登る。行き先は日ごろ愛好している散在ヶ池鎌倉湖である。流れ者ホーホケキヨと山降りる

私はこの五月で八十八歳になった。鷺の初音に励まされて、目的地の今泉に着いたのは約五十分後。いつもこの歳で杖をつきつつ、よくぞ登れると思う。

池の由来は幕末から明治にかけて水不足に悩む農民のために谷川をせき止め用水池とした。現在は四囲の豊かな自然を取り込んで、森林公園として整備され、自然観察や散策の場となっている。面積二十八ヘクタール、植物約七百種、鳥類約五十種、魚類、両生類などが棲むと

いわれている。入口の管理事務所から湖面を回遊する多数の鯉を眺める。このペランダの南西角をいつものわが定席としている。持参したペットボトルの茶で館パンをかじる。陽当たりの良さも手伝つて居心地満点、静寂である。

さて、これから本番。コッソツと中央図書館から借り出しコピーしたモーツァルト全集のCDを、リュックから取り出したポータブルCDプレイヤーで聞くのである。今年生誕二百五十年のモーツァルト、好きな「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」である。イヤホンで一人楽しむ、気品のある壮麗なメロディー、そしてわが現在地の自然、実に至高極楽の贅沢である。

モーツァルト聞かばや春の月湖に 由紀
の句を思い出した(前掲俳人は二人ともわが俳誌の同人)。最後に私の自嘲の句。鎌倉やむらさきぼけの生御魂

右上写真・三基の中の左端大写し





文芸

俳句

七里ガ浜句会 阿部 弥生
 点滴のしづく静かに春の雪
 七里ガ浜句会 加野 ヨウ
 蠟梅の日向のありて友不在
 七里ガ浜句会 倉本 ふじ
 焼芋や折りてほっくり色を食べ
 七里ガ浜句会 下條八州男
 船みえず大棧橋に冬鷗
 七里ガ浜句会 藤枝 笙
 かるやかに舞うも重たき春の雪
 七里ガ浜句会 松原 薫
 春の雪手の平にのせ顔に受け
 七里ガ浜句会 棟渡登志子
 雪垣や一戸一戸に日を分ち
 七里ガ浜句会 米澤 節子
 初富士を背に駅伝の襷継ぐ
 七里ガ浜句会 矢島 芳子
 春の雪まこと小さき文士墓

山ノ内梅鶯会 高橋 斌
 菊花展驟雨に浮ぶ弥彦山
 阿賀野川紅葉も笑う舟下り
 山門不幸臘梅匂う東慶寺
 山ノ内梅鶯会 山下カヨ子
 病む友の小さくみえし瓶の梅
 聞き返す事多くなり春炬燵
 灯のともり浮かぶ初鳥春の海

笹りんどう会 仲久喜たい
 辻説法人も屋並も五月晴
 恙なく日を刻みゆく若葉風
 鶯や朝食遅きわが庭に
 浄明寺寿会 山本 照子
 島茶屋の魚拓吹かるる青あらし
 万緑や水車ゆたかに水落とし
 ふくろう鳴くあとふつりと五月間
 沖波や今日の仕舞ひのひじき燗く
 すぐ戻る矢切りの渡し夏柳
 笹りんどう会 吉岡 朝子
 筆太に居士林とあり若葉風
 松蝉や峠の茶屋の力餅
 作務僧の肩の丸太や著我の花
 死者生者橋わたりゆく初音かな
 江の電のホームはみ出し夏燕



会員のひろば



会員投稿のコーナー

熟年の楽しい模索

今泉第二いずみ会
小泉 兼吉

音楽愛好の同志が集って
 四年前に結成したハワイア
 ンバンド。毎週水曜日の夜
 七時半より十時まで、町内
 会館を利用してレッスンに
 励んでいる。編成はスチー
 ルギター、ベース、そして



ウクレレが四人で計六名が
 メンバーである。
 私はウクレレを担当して
 いる。最初のころは指の使
 い方とか調弦等でなかなか
 苦労したが、昔職場のバン
 ドに入り弦楽器をやった経
 験もあり、比較的早く馴れ
 ることができた。初めての
 人もいたが、やはりそれな
 りに苦労したと思う。現在
 では二十曲くらい演奏でき
 るまでになった。精進の賜
 だと思っている。

これとは別に隔週の木曜
 日の夜七時から十時まで、
 やはり町内会館を借りて日
 本民謡の稽古をしている。
 私が三味線を弾き、八人く
 らいでそれぞれの持ち歌等
 をうたう楽しいひと時を
 過ごしている。月に一回、
 三週目の木曜日は、東京よ
 り尺八の先生とのお弟子
 さん三人をお招きし、特訓
 をしてもらっている。

暮れには忘年
 会、恒例の一
 泊旅行等で親
 睦を深め、ア
 ルコール等で
 たつぷり喉を
 うるおしてハ
 ッスル、ハッ
 スルの大盛況。
 その他に月
 に二回ほどカ
 ラオケを練習
 している。レパートリーも
 だいぶ増えた。
 楽器を奏でることは、指
 先の末梢神経を刺激するの
 で老化防止に最適だと聞い
 ている。これからも精進し
 たいと思っている。



鎌倉散歩

七つの切通しの最古の戦略道か 名越切通し



横須賀線の名越トンネル

の手前を下りの線路に沿って脇の小路を上がって行く。トンネルの上に出ます。そこからさらに木立を抜けてしばらく山道を辿ると、やがて切り通しになる。

登り口は急坂で狭くて、外部からは攻めるに難い鎌倉への、七つの切通しのうちで最も古いといわれる名越切通しを扼して、昔の面影をとどめている街道



られます。

この切通しは鎌倉の東口

のひとつです。頼朝時代よりも古くからあるそうです。

日本武尊が東征の時に通ったのはこの道といわれる古事があるといわれます。

名越はいまは「なごえ」といつていますが、昔は「なごし」と呼んでいたと伝え

られる。この切通しは鎌倉の東口

という重要な地点ですから、この険阻なことは他の切通しと比較しても一番といわれるようです。水戸光圀が家臣に編纂させた『新編鎌倉志』にも「甚だ険阻にして道狭し、左右より覆いたる岸二か所あり、里族、(おおほつとつ)(こほつとつ)という」と記されています。二、三人が歩けるくらいの狭い峠には「国指定史跡名越切通し」の木の低い杭が路傍に据えてあります。左の「まんだら堂」と閉鎖中を過ぎしてから先に「文化財保護委員会指定名越切通し」の看板が「県教育委員会名」で立てられています。 都筑 健一

身だしなみをきれいに整え若々しい高橋さんは、明治四十三年三月二十八日生まれ九十六歳。元氣よく市老連グラウンドゴルフ大会に参加しては、いつも周囲を驚かせている。若いころからテニス・剣道・

乗馬・スキー・山歩き・鎌倉彫などさまざまな事に挑戦し、豊富な知識や経験を培ってきた。兵役を終えた後、横須賀米軍基地に外務省嘱託通訳として定年まで勤務。現在は、単位老人クラブ会長や鎌倉美術友の会リーダーを務める

毎日六時に起床、朝食を手際よく整える。家事を自分でこなし、二人三脚で歩んできた奥さんを助けている。「最近はずいぶん玄米に代えて、炒って食べています。優れた栄養素があって、過食を防ぐことができるんです」とコツを教えていただいた。夜は大好きな相撲をみながらの晩酌。日本酒と肴を用意して日々の疲れを癒している。酒は百薬の長、薬より養生なのだ。



今号の やまももさん

山ノ内梅鶯会
高橋 健一さん(96歳)

「やまもも」の編集にも携わり、今号も旅行記や文芸欄を担当している。高橋さんは

庭の剪定も趣味のひとつ。数々の仕事の合間をぬって世話をし、心を休めるひと時を持つ。「今はクロッカスやヒヤシンス、

三椏が庭を彩っています。有楽や侘助が大きく育ち、手が届かなくて困ります(笑)」と温顔をたえる。また、勉強のためにと、鎌倉市内の史跡や神社仏閣を巡り歩く。「仏像を見ていると心が静かになり、大らかな気持ちになります。」自然とまわりに幸せを与えるその無垢な笑顔、まっすぐな心が伝わってくる。

スポンサー各位へ御礼

「やまもも」発行に際しご協賛いただきました各位に厚くお礼申し上げます。本紙は会員相互の交流と生きがい向上に、さらに内容の充実にご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。 ゆめクラブ鎌倉

表紙の写真 光明寺

天照山蓮華院光明寺こそ材木座を代表する大寺だ。四代執権経時が然阿良忠(ねんなりょうちゅう)を迎えて、佐助ヶ谷に蓮華寺を建て、1243年現在地に移した。五代時頼以降歴代執権の帰依を受け、念仏道場として下町庶民に愛される。現在は浄土宗関東総本山、立派な山門からの景観に感激。 明応4年(1495年)勅願寺に定められ以降「十夜法要」がいとなまれる。10月12日から3日間「お十夜」として近郊の信徒を集め、この間植木市、雑貨の店が並ぶ鎌倉の風物詩となった。戦前はいくつか見世物小屋が境内に並び、バスも九品寺で折り返しとなる盛況時期もあった。 この寺の見どころを挙げると①桜の名所②小堀遠州作の蓮池(大賀博士の二千年蓮)の庭園=記主庭園③「三尊五祖来迎」の枯山水④本堂右脇の「板碑」(五所神社の所蔵物と対)⑤境内南、往時の大檀家延岡藩主内藤家歴代の墓地(寺の外、飯島側から入る)これは一見の価値ある驚くべき景観である。(門田 京蔵)

原稿募集 投稿規定

倉市役所高齢者福祉課内老人クラブ連合会事務局(鎌倉市御成町18-10)まで 原稿締め切りは平成十八年八月二十日 紙面割りの都合で、原稿の採用、内容の一部修正等についてはご一任願います。原稿等は返却いたしません。

編集後記

編集の仕事をお手伝いしてまだ日の浅い新参者ですが、たとえ原稿用紙一、二枚の記事でも、人様に読んでいただく文章を書くのが、いかに難しいかを知りました。それだけに、いただいた貴重な原稿は執筆者の汗の結晶と感謝しお礼申し上げます。 編集委員 伊藤 実